

令和6年度 学 校 経 営 報 告 書

八王子市立七国小学校
校長 長田 猛

1 今年度の取組と評価

① 「生きる力」の育成（学びの質の向上）

取組目標	重点的な方策	自己評価
〈確かな学力の育成〉 すすんで学びます ＜自己発揮・自己実現＞	★『学力向上推進計画』の策定・実施 令和6年度「七国小学校 学力向上推進計画」を策定し、学力向上委員会において本校の学力上の課題を抽出し、複合的取組を通して学力向上を図る。 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現 令和6年度より2ヶ年構想で、研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現～ICTの効果的活用を通して～」の校内研究（年間講師：東京学芸大学 森本教授）を実施することで、指導力の向上を図る。 ※「実生活・実社会に生きる学び」の推進 校内研究での取り扱いとして、実生活・実社会上の課題と関連付けて学ぶことで、児童が主体的に概念や仕組みに気づき実生活・実社会上の課題解決に活かす学習過程を推進する。 ○「個別最適な学び」の推進 習熟度に対応した学習の推進：学力の二極化の対応として『学力向上推進計画』に「基礎・基本の定着」と、「伸びる子をより伸ばす」の2本軸に重点をおき、学習用端末ドリルを活用した学習、復習・発展問題への取組などを位置付け実施する。 興味・関心を活かした学び：一人一人の興味関心を活かし、各教科等において関心のある内容について学習用端末や教科書、図書を活用し、調べる、学級で共有し、考えを広げる、深めるなどの学習を推進する。 ○「学び合い、高め合う学習集団」づくり 安心・信頼できる学級経営を土台に、落ち着いて学ぶことができる学級（授業規律 椅子を引く）づくりを行う。子どもの主体性を高め、「学び合い、高め合う学習集団」を形成する（「児童サポート型授業」、「ミニティーチャー」の開拓）。学びにおける「Try&Error」を保障し、集	★4月組織改正を行い「学力向上推進委員会」（新設）で「学力向上推進計画」を策定。校内研究及び授業改善、習熟度別指導（算数）を組織的に推進。 ○校内研究において、基調講演を受け3本研究授業を実施。全教員が「主体的・対話的で深い学び」や効果的なICT活用について学びを深めた。 ○校内研究を中心に子ども達の実生活・実社会の中から主体的に概念や仕組みに気付かせる課題づくりを研究した。子ども達の実生活に密着した子ども達の主体性を引き出す授業改善に引き続き取り組むことが必要である。 ○市学力調査においては、4-6学年全教科項目において市平均を上回った。分析により2極化傾向のある領域を特定し「学力向上推進計画」への反映を行った。 ○4月ICT委員会を内容（研修）、管理に組織改正。教員研修を年3回実施し、活用系統表における各学年で習得・活用・探究場面での日常的活用を図った。 ○学力向上委員会において本校の学力課題「基礎・基本の定着」と、「伸びる子をより伸ばす」の2本軸を明確にし、ドリル学習学び合いをはじめ、発展問題、問題作りに全学年着手。 ○「学び合い、高め合う学習」の土台となる安心感のある学級経営は定着してきている。教え合う活動や質の高い対話によ

	団効果を最大限に活かした学びの開発を進める。 ○「探究的な学び」の推進 地域教育資源を最大限有効に活用し、「八王子市未来デザイン2040」との関連を図りながら、人とのかかわりや体験を積極的に取り入れ、情報を収集・整理する過程で、児童が学習課題を見付け解決・提案し未来を切り拓く探究的な学習を重視する。 ○「学び方を身に付ける」学習 子どもが主体的な学習ができるよう、子どもによる「学習手順の獲得」 「学び方が選択できる授業」づくりに取り組む。(学習支援者としての教師) 特に令和6年度から2ヶ年では校内研究を通し、単元の仕組みや概念を見つけ出すための、「見方・考え方」の発見と蓄積、他事象での活用に重点をおき取り組む ○小中9年間を見通した「確かな学力」の育成 「学力向上プロジェクトチーム」(小中一貫教育)各分科会での協議内容を深化させ、小中学校9年間を見通した学習の躰みや指導法の違いを共有し、協議を重ねることにより、小・中学校による切れ目のない学びの在り方を追究する。本校の校内研究への中学校教員の参加を通し小中学校が指導法を相互に学び9年間を通した効果的な学びを共有する。 ※「全学年一部教科担任制」または「交換授業」等の導入 ※効果的な家庭学習・授業規律・ノートの取り方、ICT活用等の共有 ○基礎・基本的知識・技能の定着 学力の2極化傾向への対応として、学力向上委員会における学力の現状共有を基に、日常の授業改善、学習用端末を用いた個別最適学習、補習学習重点期間、朝学習に取り組む。 ○GIGA スクール構想を踏まえたICTの効果的活用 学力向上委員会ICT担当により、年度初めにICT系統表を共有し、教員ICT研修を年間通し計画・実施。各学年ICT活用場面表を作成・活用し、年度末に改定	る学級全体の深い学びについてさらに実践を深める必要がある。 ○「八王子未来デザイン 2040」を活用した提案型探究学習をさらに推進するために、「七国地区学園都市構想」を開始。系統的に全学年で質の高い学習を推進するため、協議と連携を重ね、市へ提案ができた。 ○校内研究を通し、児童自らが主体的かつ深い学びを行えるよう、課題づくりや学習方法の獲得ができる授業づくりについても模索を行った。これらqの取組については今後も実践を重ねることで好事例を共有し、学校全体で共通化すべきところを見つけていきたい。 ○小中「学力プロジェクトチーム」において、本校の学力状況及び対応策を共有し、中学校教員に授業を参観してもらう事で小中学校9年間の視点での学習について協議を進めた。各分科会で出された意見については、学力向上委員会で再検討を行い次年度学力向上推進計画に還元した。 ○全学年一部教科担任制の導入・交換授業(低学年)の実施。学習、生活指導(児童理解)及び教員の授業力向上、働き方改革に効果が確認されるため、次年度以降も継続する。 ○定期的に学校だよりで募集を行い「学習ボランティアハンドブック」(R5作成)を活用。登録者は80名を超えているが低学年中心の配置である。2極化対応として算数での安定的な確保ができると良いのだが。 ○ICTの校務分掌の担当を「機器管理」と「研究・研修」に分化させることで、教員研修や校内
--	---	---

	を行うことで、各学年の習熟度に合わせた個別学習を行うとともに、効果的な ICT 活用を系統的、継続的な活用を図る。 ○<u>学びにおける「Try&Error」の保障</u> 子ども達の主体的な学びを推進するために、教師と子どもの Try&Error の機会を尊重し、主体的な学びの獲得の機会を最大限に支援する。	研究での ICT 活用を活性化させた。ICT 支援員とも連携し、各学年に必要な ICT 活用技能を高めることができた。 ○「自分たちの学校（授業）は自分たちでつくる」を合言葉に、前例にとられない授業づくりや、児童主体の意見を活かした児童主体の授業づくりを保証した。（継続の必要あり）
豊かな心の育成） 心をみがきます ＜学校生活や社会生活を創る＞ <u>「日本一優しい学校」づくり</u>	★『<u>心理的安全性の確保</u>』と『<u>人間理解に基づく組織的指導・支援</u>』の徹底 ○子どもと教職員の「心理的安全性」の担保 「日本一優しい学校」を合言葉に、優しさに溢れた学校を子ども、教職員が協力し創り上げる。 ○「<u>人間理解に基づく組織的指導・支援</u>」の徹底 児童に不安やトラブルが生じた場合は、組織力を生かして（迅速な情報共有）迅速・丁寧な聞き取りを行うことで心的状況を整理し、子どもの解決を早期かつ包括的に支援することで子ども達の成長の機会とする。 ○<u>全教育活動を通した「心」の育成、規範意識の醸成</u> 「日本一優しい学校」づくりに向け、挨拶・笑顔・協力を大切に、子供に惜しめない愛情をかけることで、子供の心理的安全性を担保する。型の指導と心の耕し（意味の理解）の両輪を図ながら、トップダウン、ボトムアップによる効果的な育成を目指す。 ○<u>自尊感情・相手意識の向上とコミュニケーションスキルの育成</u> 全教育活動を通して自尊感情や相手意識を高めるとともに、望ましいコミュニケーションスキルを育成する。特に児童間のトラブル時については、互いの気持ちに重点をおいた聞き取りにより情報整理し、「自分の気持ちの伝え方」や「注意の仕方」、「気持ちの確かめ方」、「ヘルプの出し方」等、子どもとともに考え、子どもの自立的な成長につなげる。 ○「<u>いじめ防止</u>」の徹底 「いじめ対応は第一優先」⇒「即日解決」を基本とし、児童や保護者の「不安を把握した段階」で、迅速に情報を共有し、一刻も早い不安の解消を組織的に行う。 いじめ対策委員会を核とした迅速かつ	○いじめや子ども同士のトラブルについても、子どもや保護者の「不安段階」で迅速に話し合い状況を整理し即日解決することで、子ども達の成長や安心に結びつける手法を多くの教員が獲得した。教職員、児童の安心・安全を確保するためにすべての教員にノウハウを獲得させていく必要がある。 ○教職員の心理的安全性を確保することで教師の心に余裕が生じ、子どもが「日本一優しい学校」を意識し思いやりのある言葉やあいさつなど進んで行動できるようになってきている。 ○「ABCプロジェクト」を通し、学校のあたりまえを考え実行できる素地が表れてきている。大切なことこそ繰り返し丁寧に「型の指導と心の耕し」を行い、意味を分かり実行できる子ども達を育てていきたい。 ○生活指導部を「いじめ対策」と「生活指導全般」に分け対応を強化した。生活指導主幹による整理が進められ、「いじめ対策」については実効的な組織となってきた。生活指導全般については、廊下歩行など課題を明確化しさらに迅速かつ実効的な組織にしていく必要がある。 ○5月に第5学年で「弁護士による法教育授業」を実施した。いじめに対する子どもの理解が深まるきっかけとなった。 ○不登校対応強化のため、マニュアルに加え「子ども支援シート」を作成し、担任、管理職、コー

	組織的対応により、いじめの芽の発見段階で組織的かつ迅速に即日解決を目指す。 子ども・保護者が安心して相談できる信頼関係づくりを進めるとともに、生活調査アンケート、子ども見守りシート、Q-U調査、保護者からの連絡等で、子供や保護者の不安が生じた場合は、迅速・丁寧に聞き取りを行い組織的な解決を目指す。 経営支援部を中心とした校務精査により、教員が子どもと向き合う時間を確保する。児童のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、児童・生徒主体のいじめ防止の取組の充実を図ることで、いじめが発生しにくい学校づくりを推進する。 ○「子どもが主役の学校」(「自分たちがつくる」学校) 子供は「学級・学校づくりの主体」であり、将来、地域・社会づくりの担い手となる。小学校段階から学級や学校・地域等の課題について、特別活動の時間を中心に、主体的に考え、判断し、行動、改善する活動を教育活動に計画的に取り入れる。 ○ <u>地域で安心して成長できる学校生活、社会生活づくり</u> ・幼稚園・保育園と連携したスタートカリキュラムの活用、改善 ・七国中学校と連携した生活指導 R6 学校生活のきまり、学習用端末活用のきまりについて ・地域の方々との交流の推進 ○ <u>自らの生き方について考え行動する力の育成</u> ・「保護者・地域協働型キャリア教育」の推進や、探究学習における地域の方々との交流、「自ら考え議論する道徳」を要に、自らの生き方について考え、行動する力を培う ○ <u>心を動かす体験、豊かな感性の醸成</u> ・全学年自然体験教室の実施。各教科等における体験活動や植生物の観察芸術・文化活動、友達や地域の方々との交流等の充実を通し、子ども達に豊かな感性を培う。 ○ <u>リーダーシップ・メンバーシップの育成</u> ・縦割り活動や異学年交流の工夫・改善 ・「より良い学級・学校・地域づくり」のために、自分たちは何ができるかを考えさせ、対話による意思決定、Try & Errorの機会の機会づくりを通し、リーダーシップ・メンバーシップの育成を図る ○ <u>交流及び共同学習の推進</u> ・通常学級と特別支援学級の意図的・計	ディネーター、S.C.、適応指導教室巡回教員等が組織的に情報共有し支援できる体制を構築した。居場所づくりと教職員の理解を深めた結果、年間30日以上欠席児童は12月末時点で11名(前年度比3名減)となりその児童も全て関係機関につながった。 ○学校評価時期に合わせ経営支援部による校務精査委員会を年2回開催し、全教職員による校務精査案の検討を行い、子どもと関わる時間の確保を進めた。残業が長時間になる教員は大幅に減少している。 ○「ABCプロジェクト」を全学年実施(通年)し、子供の意見を活かした生活指導を通年で行った。また、各委員会において児童の主体性を活かした取組・提案・実施を繰り返すことで「自分たちがつくる」学校への意識を醸成した。主体性を発揮する児童が増えてきているものの、自ら課題を見付け改善できる力をさらに高めていく必要がある。 ○八王子未来デザイン2040の提案型探究学習を全学年通年で進め地域愛を深めるとともに、七国地区学園都市構想を活かし地域の縦と横の視点を最大限生かした情報共有とキャリア教育活動の推進を図ることができた。 ○「保護者・地域協働型キャリア教育」については、6学年で実施。AI分野について生きた学びを得るとともに、20名以上の保護者をゲストとして迎え子ども達が自らの生き方を主体的に考える経験となった。本取組については、地域で系統的なキャリア教育が実現できるよう今後も継続・発展させていく必要がある。 ○自然体験 特に4年生のガサガサ体験では、市及び市環境教育アドバイザーと連携を深めることで、多摩川中上流域、中下流域(川崎市)での体験を行い、
--	---	---

	画的な交流及び共同学習の推進 ○ <u>郷土愛の醸成</u> ・八王子市の食や自然や産業、歴史、文化等についての交流・体験を通じた郷土学習の推進。「まちづくり」への主体的な参画	川崎市小学校とのオンライン報告会や、市への提案など、八王子市における先進的取り組みが進められた。 ○縦割り活動において高学年のリーダーシップを高めるとともに、6年生のキャリア教育を通し、進学や就職など将来の社会と結び付ける学習を行い、「小6プロブレム」(目標の停滞期)の改善に対し6年全体で取り組んだ。
〈健康・体力の育成〉 体をきたえます くチャレンジ	○<u>家庭と連携した望ましい生活習慣の定着と日常的な健康・安全教育、食育の充実</u> 健康な生活習慣の確立に向けた健康教育、食育等について、家庭・地域と連携した取組を重視する。避難訓練や安全指導を通し「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関わる安全教育を徹底し、身近な危険を予測し、自他の安全に配慮して安全な行動をとることができるよう「型の指導」の習得とともに、「自ら考え判断・行動する力」を育成する。郷土教育の一環としての「食育」の充実を図る。食物アレルギー対応の徹底を図る。 ○<u>体育授業の工夫改善と、体力づくりに向けた取組の充実</u> 「七国小学校 体力向上ハンドブック」の作成及び全学年での活用、体育実技研修会及び中学校体育との連携を通し、体育授業の改善を図るとともに、運動の日常化を目指した「朝の体力づくり時程」、全校で縄跳び運動等、「七国小学校2020レガシー」(鉄棒)と連想した取り組みを進める。 ○怪我をしにくい体作りや感染症の予防について、実際の学校での実態を共有し、教育活動を工夫するとともに、保護者や地域への情報発信に努める。 ○「体幹」を鍛えるため授業中の姿勢についても全校での共通指導とする。	○避難訓練では誰一人ふざけることなく、型の指導と意味理解を充実させることができた。 ○毎回の生活指導部会において養護教諭によるケガの発生場所と防止対応について検討を行うことで、廊下歩行について廊下に白線を引き指導や声掛けを徹底するなどの対応をとることができた。 ○毎回の昼放送で給食委員会からの放送を行い、健康や地産地消、残菜の防止などを呼びかけることで、児童が食への意識を高めることができた。 ○「七国小学校 体力向上ハンドブック」を体育部で作成し、教員研修を定期的に行うことで、資質・能力の育成に重点化した体育授業を実施することができた。次年度は本校の児童の体育的な課題を踏まえ強化できる対応を検討していきたい。 ○養護教諭が毎月の感染症の状況を把握し、病気に強い体作りや、正しい生活、ゲーム時間など、わかりやすく健康教育を行い、保護者にも適切に情報を発信することで病気の予防に努めた。 ○「体幹」を鍛えるため授業中の姿勢については全校での共通指導項目として継続した。
持続可能な社会の担い手を育てる	○<u>持続可能な社会の担い手を育てるSDGsの推進</u> SDGsを現在・未来の実社会・実生活を地球規模で見る窓としてとらえ、「世界へ目を向け、問題を発見する力」「必要な情報を自ら調べ選択する力」「正解のない問題に立ち向かう力」を育成する。	○全学年において「八王子市未来デザイン 2040」を取り入れた提案型授業づくりを年間通し実施し、身近な問題から地球環境規模の課題までを系統的・実践的に学ぶことができた。今後も七国地区学園都市構想による<u>地域連携資源や ICT の利活</u>

		用を通して、主体的・実践的な学習になるよう実践を深めることが望まれる。
小中一貫教育、キャリア・未来デザイン教育の推進 地域の力を活かした教育活動を推進 【七国地区学園都市構想への着手】	○「<u>七国地区学園都市構想</u>」の推進 東京家政学院大学、近隣保育園・幼稚園、七国中学校、連携高校、地元企業との連携による学園都市構想への着手することで、七国地域の教育資源を最大限活用した地域教育力の向上を目指す。 年度当初より「七国地区学園都市構想」関係機関との話し合いを重ね、相互にWinWin の関係を模索することで持続発展可能な構想づくり、組織作りを最重点取組として推進する。 七国地区学園都市構想の実現に向け、学校運営協議会と協議を重ね、「地域学校支援本部」の設置、学校コーディネーターの役割の明確化に取り組む。 ○小中一貫教育の推進 「八王子市小中一貫教育に関する基本方針」改定の趣旨を踏まえ、地域に生きる子どもたちの9年間の発達・成長を見通して、七国中学校と小中一貫教育を切れ目なくつなぐ教育活動を計画・実施する。 ※児童会と生徒会連携による あいさつ運動及び ユニセフ募金、児童・生徒の交流を目的とする「小中ふれあいタイム」、部活動見学及び 中学校授業体験、生活科七国中学校探検、合同学校保健委員会、青少年対策七国地区委員会の清掃活動等の地域行事への合同参加。 ○「<u>八王子未来デザイン 2040</u>」の活用と「<u>保護者・地域協働型キャリア教育</u>」 「八王子未来デザイン 2040」の趣旨を踏まえ、「未来の八王子」のまちづくりに児童が主体的に参画する力を身に付けるとともに、保護者を含む地域の様々な方々の生き方を学ぶ機会をもつことで、自己の「生き方」を深く考え、主体的に将来に挑戦する力を身に付けるために、地域・保護者等の地域教育資源を最大限に活用したキャリア教育活動を展開する。 ○<u>地域教育資源の最大活用による学校教育力向上</u> 豊かな七国地域の教育資源の活用に努め、総合的な学習（探究学習）を中心に、「良質な体験」（ヒト、モノ、コト）と、ねらいに沿った「気付き」を通して生きた学	○5月に教育、企業、自然の各団体が集まり、校長より説明を行い本構想の仕組みを確認するとともに、連携を確認した。また常時情報連携を行う仕組みを構築した。 ○9月には、各団体の特性を活かした取組を共有するとともに、持続可能かつ Win-Win となる取組について情報を共有した。なお、12月には第1回七国地区学園都市構想によるコンサート（学年閉鎖の為急遽中止）を計画。次年度に向けより参加の幅や方法等検討・改善を進めたい。 ○児童会と生徒会連携によるはちおうじっ子サミットでの話し合いやあいさつ運動、ユニセフ募金、小中ふれあいタイム、中学校授業体験、生活科七国中学校探検、合同学校保健委員会、青少年対策七国地区委員会の清掃活動等の地域行事への合同参加等、予定通り実施することができた。今後、小中行事交流なども検討・推進していきたい。 ○七国地区学園都市構想により、<u>小中一貫教育をより骨太にしたことにより、学習、生活の情報連携に加え、キャリア教育においても学びの連続性を確保することができた。</u>今後も構想の仕組みを最大限活用し、教育活動を豊かにできるよう検討を進める必要がある。 ○本校の「八王子未来デザイン 2040」の取組については、全学年年間を通し七国地区の教育資源の開拓、児童による調査活動を行った。これらの取組については情報発信に努めHP、学校・学年だより、河川

	びを獲得させる。 <u>○学校教育支援活動の充実</u> 子どもの育成に直接かかわる、学校教育支援活動学校コーディネーターの効果的活用による、学校支援活動の充実、地域ボランティア等の拡充・育成	財団冊子等による進捗状況の報告を行った。まとめにおいては市関係部課に協力を仰ぎ児童による市関係部署への提案を行うことで、児童の主体性を活かした活動を行うことができた。
--	--	---

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 課題と対応

ア 「個別最適な学習」による個に応じた学力向上

- ・学力の2極化分析と個別最適な学習の推進【学力向上委員会】

八王子市学習到達度調査分析と学習方法の改善、発展・補充学習の検討

➡効果的な実践事例の紹介、教員相互の実践研修「教師力向上タイム」（学力向上委員会）

※R7 学力向上委員会と校内研究、OJT 研修の連動させる組織改正を行う

- ・主体的・対話的で深い学びの実現～ICT の利活用～【校内研究2年次】

実生活・実社会に関連付けた学びの開拓

実践的な ICT 教員研修の実施【ICT 担当】

- ・中学と連携した指導の在り方研究【小中一貫教育学力プロジェクトチーム】

イ 児童主体の「より良い学校づくり」

- ・特別活動を軸とした児童主体の「より良い学級・学校づくり」【特別活動部】

「受け身から主体へ」「学校づくりへの児童・生徒の参画」

- ・児童の資質・能力の育成に重点をおいた行事等の改善【行事委員会】

保護者による評価から、主体者である児童による評価・改善を踏まえた行事委員会へ

- ・児童主体型の生活指導（児童による課題の気付きと改善力の向上＝受身型の生活指導の改善）

「ABC プロジェクト」の推進、型の指導と心の耕し【生活指導部・特別活動部】

- ・集団効果を最大限に生かした学び（成長）についての「指導法」の開発【全学年】

- ・児童・教師の Try&Error 保証【管理職・全学年】

ウ 人間理解に基づく組織的指導・支援

- ・人間理解に基づく組織的指導・支援【全学年】

不適応時のクーリング体制（場）の確保。心情の流れ（ストレス量）に視点を置いた共感的な聞き取り・整理、主体的課題解決方法の支援。次回に生きる課題解決法の発見と組織的支援

- ・思いやり、相手意識、命の尊厳への意識醸成（道徳授業の改善）

- ・いじめ対策委員会の機動的運用【いじめ対策委員会】

いじめは第一優先。即日解決。不安段階での不安解消に向けた迅速な対応を基本とする。

普段から相談できる関係性づくり

- ・子供の成長に結びつける丁寧な生活指導

丁寧な聞き取りと整理。生き抜くスキルの獲得

- ・児童のコミュニケーション・スキルの育成

通常学級におけるソーシャルスキルトレーニングの実施【子ども支援・特別活動】

- ・「不登校マニュアル」の改善と組織的不登校児童・保護者支援【子ども支援】

関係機関と連携した家庭の包括的支援

- ・保護者、児童対応にかかわる指導・育成【管理職】

ウ 七国地区学園都市構想（幼保から大学まで）の推進

- ・小中一貫教育の充実

- ・幼保、中高大学との連携

- ・家政学院大学との連携協定に基づく取組の開発・推進

効果的な連携内容の協議・実施

「七国地区学園都市コンサート」の実施

エ GIGA スクール構想を踏まえた ICT の日常的な利活用

- ・校内研究を軸とした ICT の効果的活用方法の開発

- ・計画的な教員研修の実施（ICT スキル系統表に示す教員の ICT 活用能力の獲得）

- ・効果的実践事例の蓄積

オ 学校・家庭・地域の学校・家庭・地域のさらなる連携・協働

- ・地域教育資源を活かした探究的な学びの推進

- ・七国地区学園都市構想の推進

- ・保護者・地域連携型キャリア教育の推進

- ・地域教育力の向上（近隣校・施設を巻き込んだ教育講演会の実施）

カ 学校事故の防止、感染症防止指導

- ・事故発生場所点検と児童の見守り・安全指導

養護教諭による事故発生場所の確認と再発防止策の協議【生活指導部】

- ・けが防止のための安全指導

手が出ない子供への対応の検討（体育部）

- ・感染症防止のための取組の徹底（手洗い・換気）

キ 校務精査

- ・学校経営支援部による校務精査（年2回）

量から質への教員の柔軟な意識転換

ク 学校組織力の向上

- ・「柔軟な思考力と組織的な実行力」の向上のための組織編制・教員の育成

経営支援部を中核とした学校課題の抽出、対応策の協議

- ・各校務分掌における事業の見直し・精査（ねらいの確認と内容・方法の検討）

- ・選考機会、研究歴等を活かした教職員の育成